

## 1. 2 資源評価調査（受託試験研究費：国費）

担当者 調査研究部 上田吉幸・田中伸幸・室岡瑞恵・城 幹昌

### （1）目的

我が国周辺 200 海里水域内の漁業対象資源の性状を科学的根拠に基づいて評価し、生物学的漁獲許容量の推計に必要な資料を収集するため、水産庁長官が独立行政法人水産総合研究センターに委託して実施する我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業の資源評価調査のうち、独立行政法人水産総合研究センターで担うことが困難な、地域の市場調査、沿岸域の調査船調査等きめの細かい調査、あるいは広い海域において同時に行う漁場一斉調査を行うことを目的とする。

### （2）経過の概要

平成 21 年度資源評価調査委託事業実施要領に基づき、以下の調査を実施した。

#### ア 生物情報収集調査

主要水揚げ港の漁獲統計データを収集するとともに、生物測定調査で得られた結果とあわせて年齢組成データ等を取得した。調査魚種、調査地は次のとおりである。

サンマ（網走）、スケトウダラ（網走）、マダラ（網走）、ホッケ（網走・紋別）、キチジ（網走）、ニシン（網走・紋別）、カレイ類（湧別・紋別・雄武）。

#### イ 生物測定調査

主要水揚げ港における漁獲物から標本を購入し、生物測定（全長、体長、体重、成熟度、年齢形質の採取）を実施、成長や成熟に関する知見を取得した。調査魚種、調査地、調査回数は次のとおりである。

スケトウダラ（網走、2 回）、マダラ（網走、1 回）、ホッケ（紋別、2 回）、キチジ（網走、4 回、斜里 1 回）、ニシン（網走、1 回）、マガレイ（紋別、3 回）。

なお、サンマ（網走）については水揚げがなく、標本採集ができなかった。

### （3）得られた結果

ニシンを除く各調査対象種の調査結果は、本報告書「漁業生物の資源・生態調査研究」の該当項に併せて記載した。調査データは FRESCO システムに登録したほか、電子ファイルで独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所に提出した。また、水産総合研究センター主催の各種会議において調査結果の概略を報告した。